



# 3年学年だより

発行日：令和5年2月28日（火）

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

校長：遠藤 広樹 NO. 10

## 令和4年度の有終の美を求めて

今月は南高校附属中学校12期生適性検査、南高校70期生高校入試が実施されました。南高校および附属中学校にも新しい春の足音が聞こえてきます。令和4年度の附属中学校の生活も残りひと月となりました。今年度の総仕上げをしている各学年の様子をお伝えします。

保護者の皆さま、1年間さまざまな場面でお力添えいただきありがとうございました。令和4年度も残りひと月、よろしくお願いたします。

### いざ、旅立ちのとき

3年学年主任 福田 由美

国語の授業で「旅立ちのスピーチ」に取り組みました。「自分の強み」と「どんな高校生活を送りたいか」を軸に、4月からの自分の姿を一人ひとりが考えました。そのなかで「自分の強みは、周りの良いところを自分の中に取り入れられるところ。9期生のみんながいてくれたからそんな自分になれた」と語られ、教室が温かさや誇らしさで包まれました。ふりかえれば、入学式直後に休校を余儀なくされた9期生。学校で友だちとともに過ごすことを願い、その嬉しさを実感している9期生。相手を尊重し、互いに高め合っていく心優しい集団に育ちました。

今年度は少しずつ学校行事が再開されました。初めて取り組む行事も、中学校の最高学年として後輩たちの範になりたいと準備も運営も頑張りました。京都研修旅行ではこれまでの3年間を取り返すように、笑顔がはじけていました。新たに活動をすればするほど9期生の秘めたる可能性を感じます。世の中の霧も薄らいできました。霧の奥に見える光を目指して、9期生の可能性を信じあって、いざ、旅立ちのとき！

### まずは行動してみよう

2年学年主任 朝比奈 康江

今年度は、それまでコロナ禍で縮小されていた行事が徐々に復活し、学校生活にも活気が戻ってきた気がします。イングリッシュキャンプでは、チャレンジ精神が旺盛で、とにかくやってみようというみなさんの姿勢が絶賛されました。体育祭や合唱コンクール、南高祭でも活躍の機会が増え、互いに仲間の新たな一面を見ることができたことでしょう。

みなさんの年代に「失敗」はありません。思い通りの結果が出なくても、周りに迷惑をかけてしまっても、そこには必ず「学び」や「気づき」があるはず。原因を探り、課題を解決したその先を見据えて行動していけばよいのです。

行動することを惜しまず、恐れず。やって後悔するより、何もしないで後から「あのとき～しておけばよかった」と思う方が残念なものです。まもなく附属中の最上級生になる10期生のみなさん。来年度は、今まで以上に「行動する」ことに挑戦していきましょう。

### 「今」を大切に

1年学年主任 三井 俊文

2022年は、サッカーにおける4年に1度の祭典、「ワールドカップ」がドーハで開催されました。日々繰り返される熱戦や日本代表の大躍進に心を躍らせた人も少なくないのではないのでしょうか。日本代表選手がワールドカップ初戦（初戦は強豪ドイツに2-1で劇的勝利）終了後にこんな発言をしていました。「この日、この瞬間のためだけに4年半前から準備してきた」と。目標を決めてそこに向かって努力することの大切さや、今という時間は過去の積み重ねであるということ、改めて気づかせてくれる言葉だなと思いました。

みなさんの中にもこの学校に入学するにあたって目標を決めた人も多いのではないのでしょうか。その目標を達成できた人も達成できなかった人も、そして目標を決めなかった人も、人との出会いや経験した出来事の積み重ねが今につながっていることは変わりません。11期生のみなさんにはぜひ目標を決めて、「今」というこの時間を大事にし、素敵な未来を形作ってほしいと思います。

さあみなさんは5年後、どんな自分になっていたいですか。願わくは素敵な未来が待っていますように。

2023.1.31 必修講座

## 国際開発講座 チェンジ・メーカーになろう!

1月31日(火)に横浜市立大学より上村雄彦教授をお招きし、「チェンジ・メーカーになろう! ~平和で幸せな世界を創るために~」というテーマでご講演いただきました。いま私たちが抱えている地球規模の問題をどのように解決していけばよいのか、一人ひとりが考えるきっかけとなりました。生徒の振り返りの一部を紹介します。



**1組:** 私は今まで「日本の問題」という“具体”でしかSDGsを見ていなかったと感じた。地球という私たちに関係あることの最も“抽象的な”広い視野で見ること、つい先程まで「まだ大丈夫」と思っていた物事がとても身近に感じて恐ろしいなと思った。特にタックスヘイブンの話のとき、例えて出された会社を見ると、ほとんどが私たちが見知った企業ばかりで、それらを毎日のように使っている私たちも「関係ない」と言えないとわかった。

**1組:** 授業では習わない社会の仕組みを知ることができて、とても貴重な体験だった。確かに各国がすべて自国のために政治をしていると、地球全体について考えることがおろそかになる。なぜ世界に政府がないのだろうと率直に思った。冒頭のテーマの「抽象化」により選択肢が広がることは、今回の話以外にも通ずることがあると思う。学んだことを抽象化して、多くの物事と関連させて考え、チェンジメーカーになっていきたい。

**2組:** 大企業や一部国家が資産を非課税地に置いているという話は聞いていたが、その行為がSDGsの達成に支障をきたしていることは知らなかった。そして一番驚いたのは、自分たちがその負の循環に間接的ながら関わっているということだ。有名企業のサービスは確かに便利であるが、その裏のこともよく考えて、サービス受容は慎重に行わなければいけないと思う。

**2組:** 質問している人たちは自分の考えを持っていかっこいいと思った。質問の一つ「税をとるのは『お金持ち』というマイノリティをないがしろにしているのではないか」というものに考えさせられた。それに対する、民主主義で決めれば問題ないという先生の答えに納得した。また、グローバルタックスの導入を目指す際には、「お金持ち」が支配している世界のなかで、弱い立場から行動を起こしているものなので、人権侵害になり得ないと思った。

**3組:** 今まで色々な場面で「地球温暖化対策が必要だ」「森林の伐採を止めなければならぬ」などの地球規模問題への対処の重要性を訴える話を聞いてきたが、それにはまだそこまでの緊迫感を感じていなかった。人間が生活できなくなるというのはなんだか非現実的に思えて、そうなるとしても自分が死んでさらにもっと先の話だろうと思っていた。だが今回の講座で具体的な数値や予想を聞き、自分の将来も保証されているわけではないのだと知り、危機感を感じた。

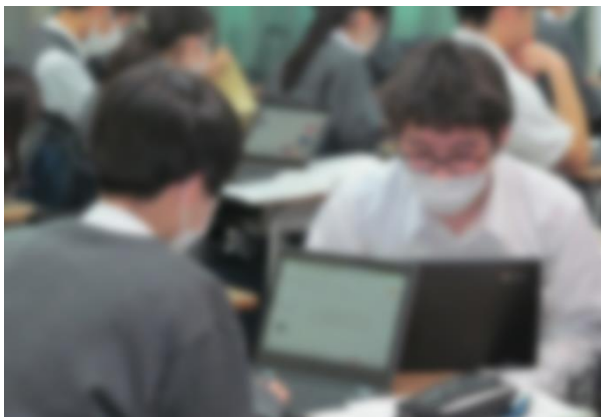
**3組:** 講義を聞いて思ったことは、政界の一致団結の大切さだ。現代の世界情勢を考えると、環境問題も戦争と同じように重大な問題だと考えた。同時にお金の大切さも感じた。世界の政治のためにはやはりお金が必要であり、SDGsの問題は世界全体で取り組まなければいけない。

4 組: 上村先生のプロフィールを見た時に“横浜市立大学国際教養学部”とあって、私が大学調べをしたのもそこだったので驚きました。そんな何かの縁を感じながらの講座でしたが、色々な新しい視点を知ることができてとてもおもしろかったです。特に講座のキーワードの「抽象度を上げる」ということ。私はこれまで抽象度を下げて具体度を上げていく、つまり“具体的に”をどんどん突き進めることがほとんどでした。しかしドローンで上空へ上がって視点を引いていくイメージで「抽象度を上げる」と視野が広がり、事の本質がつかみやすくなっていく。問題の根幹を見つけてそこから解決していくということが、直面している目前の問題ではなく、長期的な視点で見たときの根本的解決に繋がる。抽象度を上げることはリアリティを下げってしまうこととも近いので、いかに現実性をもたせるかが難しいことだと思いました。

4 組: 今までも現代社会における著しい格差の解消にどのような策を講じられるのか、と考えることは時々あったが、実際に提唱されている学説に触れるのは今回が初めてだったため、大変興味深く話を聞くことができた。税もベーシックインカムも配分をうながすのに効果があることはすでに知っていたが、それを世界規模で、上村先生の言葉を引用すれば「抽象度を上げて」考えたことはなく、今やっていることをさらに大規模に行うことでさらなる効果を図るという発想に新鮮さを感じた。また実際の試算によって具体的な金額を用いた説明もわかりやすく説得力もあった。ただ、残念なことに時間不足により残った質問が多々ある。もっと詳しく知りたい！！

## EGG 卒業研究 いよいよ千秋楽

# 卒業研究発表会に向けて準備中！



1 年間取り組んで生きた EGG 卒業研究もいよいよ大詰め、研究発表会の準備段階となりました。3 月 11 日(土)に予定している卒業研究発表会では、10 期生と保護者の方々に向けて、1 年間の取り組みの過程と研究の成果を説明します。先日の土曜 EGG では、スピーチで使用するスライドを作成しました。直前に行った国語のスピーチ学習を思い出しながら、説得力のあるスピーチを目指します。来年度卒業研究に挑戦する 10 期生のイメージ作りに貢献できるよう、また 3 年間の中学校での学びの集大成を保護者の方々に伝えられるよう、余念のない準備を期待しています。

### 如月の福袋

階段門の紅白の梅がほころび、3 年前の適性検査や 3 年間の歩みを思い出したことでしょう。可憐な梅の花は「東風（こち）吹かば匂い起こせよ梅の花あるじなしとて春を忘るな」と菅原道真の和歌をも思い出させ、附属中生は学問の神様に見守られているのだなぁと思います。卒業まであとひと月。「9 期生」として過ごす最後の日々を、貪欲に濃密に送りましょう！